Express5800

ESMPRO/ServerManager Ver.5
コマンドラインインターフェース

Rev.1.10

目次

商標について

EXPRESSBUILDER と ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

Windows Server® 2008 R2 は、Windows Server® 2008 R2, Standard、Windows Server® 2008 R2, Enterprise、および Windows Server® 2008 R2, Datacenter の略称です。
Windows Server 2008 は、Windows Server® 2008 Standard、Windows Server® 2008 Enterprise、Windows Server® 2008 Datacenter、および Windows Server® 2008 Foundation の略称です。
Windows Server 2003 R2 は、Windows Server® 2003 R2, Standard Edition、Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition、Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition、および Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition の略称です。
Windows Server 2003 は、Windows Server® 2003 Standard Edition、Windows Server® 2003 Enterprise Edition、Windows Server® 2003 Standard x64 Edition、および Windows Server® 2003 Enterprise x64 Edition の略称です。
Windows 7 は、 Windows® 7 Professional、および Windows® 7 Ultimate の略称です。
Windows Vista は、Windows Vista® Business、Windows Vista® Enterprise、および Windows Vista® Ultimate の略称です。
Windows XP は、Windows® XP Professional operating system、および Windows® XP Professional x64 Edition operating system の略称です。

■ ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
(4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
(5) 運用した結果の影響については（4）項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本書では、コンポーネント管理ユーティリティ「ESMPRO/ServerManager」のコマンドラインインターフェースを説明しています。
コマンドラインインターフェースをご使用になる前に本書をよくお読みになり、ユーティリティを正しくお使いになるようお願い申し上げます。

■ ご注意
本書での内容は、対象 OS の機能や操作方法およびネットワークの機能や設定方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。対象 OS に関する操作や不明点については、各 OS のオンラインヘルプなどを参照してください。

本書では、コンポーネント全般について、汎用的に説明しています。コンポーネントの製品別の注意事項や制限事項は、コンポーネントに添付されているユーザーズガイドまたは以下の URL を参照してください。
http://www.nec.co.jp/smsa/

本書に掲載されている画面イメージ上に記載されている名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。また、画面イメージ上の設定値は例であり、IP アドレスなどの設定値についての動作保証を行うものではありません。

■ 本書中の記号について
本文中では次の 3 種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

重要：　ソフトウェアや装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意すべき点を示します。
チェック：　ソフトウェアや装置を取り扱う上で確認しておく必要がある点を示します。
ヒント：　知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■ 本書中の書体について
本文中で使用している *イタリック体* はコマンドのオプションを示します。

■ **ESMPRO/ServerManager のその他の説明について**
本書に記載されていない、ESMPRO/ServerManager のその他の説明については、以下の文書を参照してください。

・ESMPRO/ServerManager Ver.5 インストレーションガイド
・ESMPRO/ServerManager Ver.5 セットアップガイド
・ESMPRO/ServerManager Ver.5 コマンドラインインターフェース ユーザーズガイド ExpressUpdate 管理編

第1章 コマンドラインインターフェースについて

ESMPRO/ServerManager コマンドラインインターフェースは ESMPRO/ServerManager が動作している装置上からコマンドラインによってコンポーネントの制御を行うことができるコマンドセットを提供します。
コマンドセットは Web ブラウザを利用して実行できる機能の一部をカバーしています。

チェック：

- コマンドセットは、主にコンポーネント上の BMC または ESMPRO/ServerAgent Extension と通信して実現する機能を実行できます。コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent を必要とする機能はサポートしていません。

以下のコマンドがあります。

■ グループ管理系コマンド
複数のコンポーネントを一括管理するためのグループに関するコマンドです。

■ コンポーネント管理系コマンド
リモート管理対象のコンポーネントに関するコマンドです。

■ **EM**カード管理系コマンド
EM カードに関するコマンドです。

■ 筐体管理系コマンド
リモート管理対象のコンポーネントまたはEMカードを搭載している筐体に関するコマンドです。

- 通信管理系コマンド
  コンポーネントと WAN 接続やダイレクト接続で接続するための設定を変更できます。
- 環境設定系コマンド
  ESMPRO/ServerManager の設定を参照したり変更したりします。
- ユーザ管理系コマンド
  Web ブラウザ上で ESMPRO/ServerManager を使用するユーザを管理します。
- その他のコマンド
  その他のコマンドです。

1.1 動作環境

ESMPRO/ServerManager コマンドラインインターフェースは、ESMPRO/ServerManager が動作している装置（Manager サーバと呼びます）上でのみ実行可能です。

ESMPRO/ServerManager コマンドラインインターフェースを実行するためには、OS の管理者権限が必要です。

Windows の場合：Administrator 権限
Linux の場合：root 権限

チェック：

- Windows Vista/Windows 7/ Windows Server 2008 では、コマンドラインインターフェース実行ファイル(dscli.exe)を含むディレクトリのアクセス許可を取得する必要があります。ディレクトリのアクセス許可を取得すると、標準ユーザも CLI を実行可能になります。

ヒント：

- ESMPRO/ServerManager の動作環境については「ESMPRO/ServerManager Ver.5 インストレーションガイド」を参照してください。

1.2 実行方法

OS のコマンドプロンプトから以下のように入力することで、コマンドの実行を行います。

```
dscli CommandName [Option, …]
```

dscli	ESMPRO/ServerManager コマンドラインインターフェースのコマンドであることを示します。
CommandName	実行したいコマンド名を入力します。
Option	各コマンドで定められているオプションパラメータを入力します。

1.2.1 コマンド実行時の注意事項

以下にコマンドを入力するときの注意事項を示します。

(1) 特殊文字を入力する場合

オプションに空文字列を入力する場合や、&などの特殊文字を入力する場合は、入力文字列をダブルコーテーションで囲ってください。入力例を示します。

例 1:空文字列の入力

```
dscli setGroupProperty MyGroup GROUP_COMMENT “”
```

例 2:特殊文字の入力

```
dscli setServerProperty MyServer CFG_SERIAL_INIT “ATE1Q0V1X4&D2&C1S0=0”
```

(2) MAC アドレスを入力する場合

コマンドのオプションにある「Server」で指定できる MAC アドレスとは、コンポーネント上の BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレスです。MAC アドレスを入力する場合は、各オクテットをコロンで区切った 16 進数で入力してください。入力例を示します。

```
dscli getServerProperty 00:30:13:16:cd:fe SERVER_IP_1
```

(3) GUID を入力する場合

GUID を入力する場合は、各セクションをコロンで区切った 16 進数で入力してください。入力例を示します。

```
dscli getServerProperty 80c03228:35d8:d711:8001:003013f10072 SERVER_IP_1
```

チェック：

- コマンドの「Server」オプションで MAC アドレスまたは GUID を指定する入力方法は接続チェック実施後に利用可能になります。

1.3 実行結果

すべてのコマンドは終了ステータスを返します。またエラーが発生した場合は、エラーメッセージを返します。

すべてのコマンドの終了ステータスは以下の通りとなっています。

０　　：正常終了
０以外：異常終了

各コマンドでエラーが発生した場合、終了ステータスとして 0 以外の値が返され、エラーメッセージが表示されます。またメッセージによってはエラー要因メッセージが後に続きます。

ヒント：

- シェルスクリプトでコマンドを実行する場合、Windows では「ERRORLEVEL」、Linux では「$?」で終了ステータスを確認できます。

1.4 実行例

1 台のコンポーネントを LAN 経由で管理するためのコマンド発行手順を示します。

(1) createGroup で グループを作成します。

(2) createServer で コンポーネントを登録します。

(3) checkConnection でコンポーネントの接続チェックを行います。

接続チェックが正常終了すると、ESMPRO/ServerManager でコンポーネントをリモート管理できるようになります。

1.5 複数のManagerサーバからのコマンド利用について

1 台のコンポーネントを複数の Manager サーバでリモート管理可能なのと同じく、複数の Manager サーバからコマンドの発行も可能です。

重要：

- 注意事項に関しましては「ESMPRO/ServerManager Ver.5 インストレーションガイド」の「複数の ESMPRO/ServerManager の利用について」を参照してください。

第2章　コマンド一覧

2.1　グループ管理系コマンド

2.1.1　getList

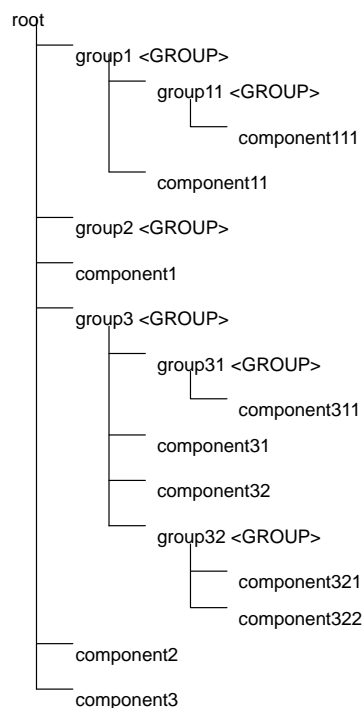
Syntax:
dscli getList *GroupName [/g] [/x]*

Description:
指定されたグループ下に登録されているグループとコンポーネントの一覧を表示します。
付加オプションを指定しない場合は、グループ直下のグループとコンポーネントを表示します。

Options:
GroupName
グループの名前を指定します。
ルートに存在するグループとコンポーネントについて表示する場合は”root”と指定します。

/g
“/g”オプションを指定すると、グループ名だけを表示します。

/x
“/x”オプションを指定すると、指定されたグループおよびサブグループ下の一覧を表示します。

Output:
コンポーネント・グループが以下の構成の場合の表示例を示します。

グループとコンポーネントの一覧を表示します。表示例を示します。

```
>dscli getList root
    group1 <GROUP>
    group2 <GROUP>
    component1
    group3 <GROUP>
    component2
    component3
```

“/g”オプションを指定した場合の表示例を示します。

```
>dscli getList root /g
    group1 <GROUP>
    group2 <GROUP>
    group3 <GROUP>
```

“/x”オプションを指定した場合の表示例を示します。

```
>dscli getList root /x
root
    group1 <GROUP>
        group11 <GROUP>
            component111
        component11
    group2 <GROUP>
    component1
    group3 <GROUP>
        group31 <GROUP>
            component311
        component31
        component32
        group32 <GROUP>
            component321
            component322
    component2
    component3
```

“/g”オプションと“/x”オプションを指定した場合の表示例を示します。

```
>dscli getList root /g /x
root
    group1 <GROUP>
        group11 <GROUP>
    group2 <GROUP>
    group3 <GROUP>
        group31 <GROUP>
        group32 <GROUP>
```

2.1.2 createGroup

Syntax:
`dscli createGroup` *`GroupName [ParentGroupName]`*

Description:
新しいグループを作成します。

Options:
`GroupName`
作成するグループの名前を指定します。
最大 63 文字までの名前を入力できます。
`ParentGroupName`
グループの下にグループを作成する場合、親グループの名前を指定します。
ルートに作成する場合は、このオプションを指定しないか、”root”と指定します。

ヒント：
- *GroupName* に既に登録されているグループの名前は指定できません。

2.1.3 deleteGroup

Syntax:
`dscli deleteGroup` *`GroupName`*

Description:
指定されたグループを削除します。グループに所属するコンポーネント、およびサブグループもすべて削除します。

Options:
`GroupName`
グループの名前を指定します。

2.1.4 moveGroup

Syntax:
`dscli moveGroup GroupName` *`[ParentGroupName]`*

Description:
グループを移動します。グループに所属するコンポーネント、およびサブグループもすべて移動します。

Options:
`GroupName`
移動したいグループの名前を指定します。

`ParentGroupName`
移動先の親グループの名前を指定します。
ルート下に移動する場合は、このオプションを指定しないか、”root”と指定します。

2.1.5 setGroupProperty

Syntax:
`dscli setGroupProperty` *`GroupName PropertyName Value`*

Description:
指定されたグループのグループプロパティを設定します。

Options:
GroupName
グループの名前を指定します。

PropertyName
設定するプロパティの名前を指定します。設定可能なプロパティの一覧を示します。

Value
新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value	初期値
GROUP_NAME	グループ名です。	63 文字まで	(なし)
GROUP_COMMENT	グループに関する説明です。	255 文字まで	空白

ヒント：
- GROUP_NAME に既に登録されているグループ名は指定できません。

2.1.6 getGroupProperty

Syntax:
`dscli getGroupProperty` *`GroupName PropertyName`*

Description:
指定されたグループのグループプロパティを表示します。

Options:
GroupName
グループの名前を指定します。

PropertyName
取得するプロパティのキー名を指定します。グループプロパティの一覧については 2.1.5 setGroupPropertyを参照してください。

Output:
指定されたグループプロパティを表示します。

2.1.7 getGroupStatus

Syntax:
```
dscli getGroupStatus GroupName
```

Description:
指定されたグループの状態を表示します。グループ下のすべてのコンポーネント状態のうち、もっとも悪い状態をグループの状態として表示します。
コンポーネント監視機能で、コンポーネントの状態を確認します。

Options:
GroupName
　グループの名前を指定します。

Output:
指定されたグループの状態を表示します。状態には以下の種類があります。

ERROR	異常
WARNING	警告
UNKNOWN	不明、通信エラー
DC-OFF	DC-OFF
NORMAL	正常
NO_MONITORING	監視対象外

2.1.8 groupPowerOn

Syntax:
```
dscli groupPowerOn GroupName [/p] [/exs ComponentName1 ComponentName2 ... ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]
```

Description:
指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントの電源を ON にします。
サブグループ下のコンポーネントも制御します。

重要：
- コンポーネントが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

チェック：
- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:
GroupName
グループの名前を指定します。
ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、"root"と指定します。

/p
"/p"を指定すると、電源 ON 後、ネットワークブートを行います。

ヒント：
- プロパティの設定は 2.2.9 setServerPropertyで行ってください。

/exs
"/exs"オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg
"/exg"オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:
エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

```
Component1
    : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
    : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.9 groupPowerOff

Syntax:
dscli groupPowerOff *GroupName [/exs ComponentName1 ComponentName2 ... ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]*

Description:
指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントの電源を強制的に OFF にします。
サブグループ下のコンポーネントも制御します。

重要：
- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。

チェック：
- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:
GroupName
グループの名前を指定します。
ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、"root"と指定します。

/exs

“/exs”オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg

“/exg”オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:
エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

```
Component1
    : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
    : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.10 groupReset

Syntax:
`dscli groupReset` *`GroupName [/p] [/exs ComponentName1 ComponentName2 ... ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]`*

Description:
指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントを強制的にリセットします。
サブグループ下のコンポーネントも制御します。

重要：
- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- コンポーネントが強制ネットワークブート機能（ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能）をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

チェック：
- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。
ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、”root”と指定します。

/p

“/p”を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

ヒント：
- プロパティの設定は 2.2.9 setServerPropertyで行ってください。

/exs

“/exs”オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg

“/exg”オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:
エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

```
Component1
    : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
    : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.11 groupPowerCycle

Syntax:
`dscli groupPowerCycle` *`GroupName [/p] [/exs ComponentName1 ComponentName2 ... ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]`*

Description:
指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントの電源を強制的に OFF にした後、ON にします。サブグループ下のコンポーネントも制御します。

重要：

- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- コンポーネントが強制ネットワークブート機能（ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能）をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

チェック：

- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。
ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、”root”と指定します。

/p

“/p”を指定すると、電源 ON 後、ネットワークブートを行います。

/exs

“/exs”オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg

“/exg”オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

ヒント：

- プロパティの設定は 2.2.9 setServerPropertyで行ってください。

Output:

エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

```
Component1
    : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
    : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.12 groupShutdownOs

Syntax:

dscli groupShutdownOs *GroupName [/force] [/exs ComponentName1 ComponentName2 . . . ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 . . . GroupNameN]*

Description:

指定されたグループに所属するすべてのコンポーネント上の OS をシャットダウンします。
サブグループ下のコンポーネントも制御します。
LAN 経由で実行する場合は、コンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに実行できます。
“/force”オプションを指定した場合は、接続形態に関わらず、強制シャットダウンを行います。このとき ESMPRO/ServerAgent Extension とは通信を行いません。
ダイレクト接続またはモデム接続では、”/force”オプション指定時のみ実行できます。

チェック：

- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。
ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、”root”と指定します。

/force

“/force”を指定すると、強制シャットダウンを実行します。OS の種類や設定によっては正しくシャットダウンされない可能性があります。

/exs

“/exs”オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg

“/exg”オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:
エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

```
Component1
    : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
    : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.13 groupSetPowerRestoreDelay

Syntax:
`dscli groupSetPowerRestoreDelay` *`GroupName DelayTime [/x Policy] [/exs ComponentName1 ComponentName2 ... ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]`*

Description:
指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントについて、コンポーネントが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定を変更します。
サブグループ下のコンポーネントも制御します。
電源オプション設定では､AC-LINK 設定､および､AC-LINK 設定が AC ON 時に連動して電源 ON(DC ON)する設定になっているときの AC ON から DC ON までの間隔を指定できます。

重要：
- コンポーネントが電源オプション設定機能をサポートしていない場合は実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

チェック：
- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:
`GroupName`
グループの名前を指定します。
ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、”root”と指定します。

`DelayTime`

AAA～600	AC ON から DC ON までの間隔を秒単位で指定します。 ※AAA はコンポーネントの設定可能最小値
-1	AC ON から DC ON までの間隔を変更しないときに指定します。
RANDOM	AC ON から DC ON までの間隔をランダムに指定します。 ※ランダム設定機能をサポートしているコンポーネントの場合、ランダムを指定できます。

`/x Policy`
AC-LINK を設定します。Policy に設定可能な値は 3 種類です。

STAY_OFF	AC ON 時、DC OFF 状態になります。
LAST_STATE	DC OFF 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DC OFF 状態になります。 DC ON 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。
POWER_ON	AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。

“/exs”

“/exs”オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

“/exg”

“/exg”オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:
エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

```
Component1
    : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
    : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.14 groupGetRemoteKvmLicense

Syntax:
`dscli groupGetRemoteKvmLicense` *`GroupName`*

Description:
指定されたグループに所属する各コンポーネントについて、リモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況を表示します。
サブグループ下のコンポーネントについても表示します。

Options:
`GroupName`

グループの名前を指定します。
ルート下のすべてのコンポーネントを表示したい場合、”root”と指定します。

Output:
各コンポーネントについて、リモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況を以下のように表示します。

Installed	リモートマネージメント拡張ライセンスが登録されています。
Not Installed	リモートマネージメント拡張ライセンスが登録されていません。
Unsupported	リモートマネージメント拡張ライセンスの対象ではありません。
-	リモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況を取得できませんでした。

表示例を示します。

```
Component1
    : Installed
Component2
    : Installed
Component3
    : Not Installed
Component4
    : Unsupported
Component5
    : -
 :
```

2.2 コンポーネント管理系コマンド

2.2.1 getServerList

Syntax:
`dscli getServerList [/d]`

Description:
ESMPRO/ServerManager 上に登録されたコンポーネントの一覧を表示します。

Options:
/d

“/d”を指定すると、コンポーネントの一覧に、コンポーネント名の他 GUID、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレスを表示します。また、以下の付加情報を表示します。

- BMC が EXPRESSSCOPE エンジン の場合「EXPRESSSCOPE Engine」と表示します。
- コンポーネント上の BMC がアドバンスドリモートマネージメントカードの場合「ARMC」と表示します。
- 管理対象が Switch Blade である場合 「SWB」 と表示します。

Output:
ESMPRO/ServerManager 上に登録されたコンポーネントの一覧を表示します。表示例を示します。

(“/d”オプションを指定しない場合)

```
Component1
Component2
Component3
 :
 :
```

(“/d”オプションを指定した場合)

```
Component1
GUID  02010202:0000:0000:0000:000000000000
MAC1  00:30:13:f1:00:5a
MAC2  00:30:13:f1:00:5b
EXPRESSSCOPE Engine

Component2
GUID  00301316:cdfe:0180:0010:846e8062d906
MAC1  00:30:13:16:cd:fe
SWB

Component3
GUID  00010203:0405:0607:0809:0a0b0c0d0e0f
MAC1  00:00:4c:9f:13:cb
ARMC
 :
 :
```

2.2.2 getServerNameByMacAddr

Syntax:
`dscli getServerNameByMacAddr` *`MacAddress`*

Description:
指定された MAC アドレスに対応するコンポーネント名を表示します。

Options:
MacAddress
コンポーネント上の BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレスを指定します。

実行例を示します。

```
dscli getServerNameByMacAddr 00:30:13:f1:00:5a
```

Output:
コンポーネント名を表示します。表示例を示します。

```
Component1
```

2.2.3 getServerNameByGuid

Syntax:
`dscli getServerNameByGuid` *`GUID`*

Description:
指定された GUID に対応するコンポーネント名を表示します。

Options:
GUID
GUID を指定します。

実行例を示します。

```
dscli getServerNameByGuid 00301316:cdfe:0180:0010:846e8062d906
```

Output:
コンポーネント名を表示します。表示例を示します。

```
Component2
```

2.2.4 findNewServer

Syntax:
`dscli findNewServer` *`StartIpAddr EndIpAddr`*

Description:
ESMPRO/ServerManager 上に登録されていないコンポーネントの BMC をネットワーク上から検索します。指定された IP アドレス範囲のコンポーネント(BMC)を検索します。

ヒント：
- findNewServer、findNewServerNetAddr でみつかったコンポーネントを ESMPRO/ServerManagerに登録する場合、createServerを使用します。2.2.6 createServer を参照してください。

Options:
`StartIpAddr`
IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを指定します。
`EndIpAddr`
IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを指定します。

Output:
発見したコンポーネントの一覧を表示します。表示例を示します。

```
Status: SUCCESS

No.1
1st IP Address      : 192.168.14.18
2nd IP Address      : 0.0.0.0
Current IP Address  : 192.168.14.18
IPMI Version        : 1.5
GUID                : 84ee20b0:84a1:d511:0080:a0ff94470300

No.2
1st IP Address      : 192.168.14.19
2nd IP Address      : 0.0.0.0
Current IP Address  : 192.168.14.19
IPMI Version        : 1.5
GUID                : 00004c79:45c0:0180:0010:f57f80d8cef8
:
:
```

2.2.5 findNewServerNetAddr

Syntax:

```
dscli findNewServerNetAddr NetAddr NetMask
```

Description:

ESMPRO/ServerManager 上に登録されていないコンポーネントの BMC をネットワーク上から検索して表示します。指定されたネットワークアドレスによりコンポーネントを検索します。

ヒント：

- findNewServer、findNewServerNetAddr でみつかったコンポーネントを ESMPRO/ServerManagerに登録する場合、createServerを使用します。2.2.6 createServer を参照してください。

Options:

NetAddr

ネットワークアドレスを指定します。

NetMask

ネットワークマスクを指定します。

Output:

発見したコンポーネント一覧を表示します。表示内容はfindNewServerと同じです。2.2.4 findNewServerを参照してください。

2.2.6 createServer

Syntax:
```
dscli createServer ComponentName GroupName AuthKey [IpAddr1] [IpAddr2]
```

Description:
ESMPRO/ServerManager に新規にコンポーネントを登録します。

Options:
ComponentName
ESMPRO/ServerManager 上でコンポーネントを管理するための名前（コンポーネント名）を指定します。
最大 63 バイトまでの名前を入力できます。
GroupName
コンポーネントの所属グループを指定します。
AuthKey
コンポーネントの認証キーを指定します。16 文字までの認証キーを指定してください。
コンポーネントの BMC コンフィグレーションで設定した認証キーを入力してください。
IpAddr1
コンポーネントの BMC の IP アドレスを指定します。コンポーネントと LAN 経由で通信しない場合、このオプションは省略できます。
IpAddr2
コンポーネントの BMC の予備の IP アドレスを指定します。このオプションは省略できます。

ヒント：
- *ServerName* に既に登録されているコンポーネントの名前は指定できません。
- *IpAddr1*、*IpAddr2* に既に登録されている IP アドレスは指定できません。
- プロパティのその他の項目は、2.2.9 setServerPropertyで設定してください。

2.2.7 deleteServer

Syntax:
```
dscli deleteServer Component [/force]
```

Description:
ESMPRO/ServerManager に登録されたコンポーネントを削除します。

Options:
Server
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/force
スケジュール運転設定済みのコンポーネントを削除するときは、ESMPRO/ServerAgent Extension からスケジュールを削除しますが、スケジュール削除に失敗した場合(ESMPRO/ServerAgent Extension がアンインストールされている等)は、コンポーネントを削除できません。このとき、"/force"を指定すると、コンポーネントを強制的に削除します。

2.2.8 checkConnection

Syntax:
`dscli checkConnection` *`Component [/force]`*

Description:
コンポーネントの BMC と通信して接続確認を行います。また、リモート管理のために必要な情報をコンポーネントから収集します。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`/force`
コンポーネントを置き換えた場合は"/force"を指定して接続確認を行ってください。

チェック：
- ESMPRO/Server Manager がコンポーネントの EMSPRO も管理している場合、"/force"を指定すると、ESMPRO 通信と BMC 通信で異なるコンポーネントに通信することがあります。

2.2.9 setServerProperty

Syntax:
`dscli setServerProperty` *`Component PropertyName Value`*

Description:
プロパティを変更します。

Options:
`Server`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`PropertyName`
設定するプロパティの名前を指定します。設定可能なプロパティの一覧を示します。

`Value`
新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value	初期値
CONSOLE_LOG_ENABLE	コンソールログ取得の有効／無効を示します。コンソールログは、リモートコンソールの画面データをテキスト形式で保存する機能です。	0: 無効 1: 有効	1
CONSOLE_LOG_SIZE	コンソールログの最大容量を KB 単位で指定します。	4－1000	64

PropertyName	意味	Value	初期値
CONSOLE_LOG_KEEP_CONNECTION	Web ブラウザでリモートコンソールを開いていない時でもコンソールログ取得を行う機能の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_MONITORING	コンソールログに対する障害メッセージ監視の有効／無効を示します。障害メッセージ監視は、コンソールログに記録される各行の先頭に障害メッセージ識別子が検出された場合に、そのコンポーネントの障害状態をセットする機能です。	0: 無効 1: 有効	1
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_IDENTIFIER	障害メッセージ監視のための文字列（障害メッセージ識別子）を指定します。	20 文字まで	</BP>
SERVER_NAME *1	コンポーネントの表示名です。	63 バイトまで	(なし)
SERVER_AUTHKEY *1	コンポーネントの BMC と通信するための認証キーです。	16 文字まで	(なし)
SERVER_CURRENT_PORT_TYPE	ESMPRO/ServerManager からコンポーネントへの通信の接続形態を指定します。 EM カードの場合、 LAN 以外は指定できません。	0: LAN 1: ダイレクト 2: モデム	0
SERVER_IP_1 *1	LAN 接続のための BMC IP アドレスです。	IP アドレス形式	0.0.0.0
SERVER_IP_2	LAN 接続のための予備の BMC IP アドレスです	IP アドレス形式	0.0.0.0
SERVER_CURRENT_IP *1	LAN 接続のための現在使用中の BMC IP アドレスです。	IP アドレス形式	0.0.0.0
SERVER_SUBNETMASK_1 *1	LAN 接続の BMC IP アドレスのサブネットマスクです。	IP アドレス形式	255.255.255.0
SERVER_SUBNETMASK_2	LAN 接続の予備の BMC IP アドレスのサブネットマスクです	IP アドレス形式	255.255.255.0
SERVER_PHONE_NUMBER	モデム接続を行うための電話番号です。	19 文字まで	空白
SERVER_ALIAS *1	コンポーネントの別名です。	255 バイトまで	(コンポーネント名と同じ)

*1 EM カードに対しても設定可能なプロパティです。

ヒント：

- SERVER_NAME に既に登録されているコンポーネントの名前は指定できません。
- SERVER_IP_1、SERVER_IP_2 に既に登録されている IP アドレスは指定できません。
- コンポーネントが所属するグループを変更する場合は2.2.10 moveServerを使用してください。

2.2.10 moveServer

Syntax:
`dscli moveServer *Component GroupName*`

Description:
コンポーネントの所属グループを変更します。

Options:
Server
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

GroupName
　新しいグループの名前を指定します。
　ルート下に移動する場合は、"root"と指定します。

2.2.11 getServerGroup

Syntax:
`dscli getServerGroup *Component*`

Description:
コンポーネントが所属するグループ名を表示します。

Options:
Component
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
コンポーネントが所属するグループ名を表示します。
ルートに存在する場合は"root"と表示します。

2.2.12 setCurrentPort

Syntax:
`dscli setCurrentPort` *`Component Connection`*

Description:
コンポーネントとの接続形態を変更します。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`Connection`

コンポーネントと通信を行う接続形態を指定します。

LAN	LAN 経由で接続
SERIAL	シリアルポートをダイレクト接続
MODEM	モデム経由で接続

2.2.13 getServerProperty

Syntax:
`dscli getServerProperty` *`Server PropertyName`*

Description:
コンポーネントの指定されたプロパティを表示します。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`PropertyName`

取得するプロパティの名前を指定します。2.2.9 setServerPropertyを参照してください。

Output:
コンポーネントの指定されたプロパティを表示します。

2.2.14 getServerInfo

Syntax:
`dscli getServerInfo` *`Component`*

Description:
指定されたコンポーネントについて、主なプロパティの項目を出力します。

Options:
`Component`
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
指定されたコンポーネントについて、主なプロパティの項目を表示します。
表示される情報を示します。

項目名	意味
Component Name	コンポーネントの名前です。
Alias	コンポーネントの別名です。
Group	コンポーネントが所属するグループ名です。
Connection Type	コンポーネントとの接続形態です。
BMC Control	BMC 管理の状態を示します。 Enable ： 管理有効 Disable ： 管理無効 Not Registered ： 管理未登録 Not Support ： 管理対象外 (BMC 未搭載装置)
Check Connection	接続チェックを実施済みの場合は Completed と表示します。
BMC Current IP Address	LAN 接続のための現在使用中のコンポーネントの BMC IP アドレスです。
Failover	BMC の片方の IP アドレスへの通信がエラーになった場合にもう一方の IP アドレスに切り替えて通信を続行するフェイルオーバー機能の有効／無効を示します。
BMC LAN1 IP Address	LAN 接続のためのコンポーネントの BMC の IP アドレスです。
BMC LAN1 Subnet Mask	LAN 接続のためのコンポーネントの BMC のサブネットマスクです。
BMC LAN2 IP Address	LAN 接続のためのコンポーネントの BMC の予備の IP アドレスです。
BMC LAN2 Subnet Mask	LAN 接続のためのコンポーネントの BMC の予備の IP アドレスのサブネットマスクです。
Phone Number	コンポーネントの電話番号です。
Product Name	コンポーネントの製品名です。
Serial Number	コンポーネントの号機番号です。
GUID	コンポーネントの個体識別用 ID です。
IPMI Version	コンポーネントの IPMI バージョンです。
Remote KVM and Media License	コンポーネントのリモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況です。この項目はコンポーネントが EXPRESSSCOPE エンジンを搭載している場合のみ表示されます。 出力内容については、2.1.14groupGetRemoteKvmLicenseの説明を参照してください。
Chassis Name	コンポーネントが搭載されている筐体名。コンポーネントが CPU ブレードまたはスイッチブレードの場合に表示します。
Slot Number	コンポーネントが搭載されているスロット番号。コンポーネントが CPU ブレードまたはスイッチブレードの場合に表示します。
Blade Width	ブレードの幅。スロット枚数で示します。コンポーネントが CPU ブレードまたはスイッチブレードの場合に表示します。

Blade Height	ブレードの高さ。スロット枚数で示します。コンポーネントがブレード高の情報を持っている場合に表示されます。
Blade Name	ブレード名。 コンポーネントがブレード名の情報を持っている場合に表示されます。

2.2.15 getDeviceId

Syntax:
`dscli getDeviceId` *`Component`*

Description:
コンポーネントのマネージメントコントローラ情報を取得します。

Options:
`Component`
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
デバイス ID の表示例を示します。

```
Device ID       : 20H
Device Rev.     : 1
Fw Rev.         : 00.08
Manufacturer ID : 119
Product ID      : 2c3H
```

2.2.16 getGuid

Syntax:
`dscli getGuid` *`Component`*

Description:
コンポーネントの GUID を取得します。GUID は個体識別用の ID です。

Options:
`Component`
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
GUID を表示します。

2.2.17 getProductName

Syntax:
`dscli getProductName` *`Component`*

Description:
コンポーネントの製品名と号機番号を取得します。

Options:
`Component`
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
以下の情報を表示します。
　ProductName　**コンポーネントの製品名です。**
　SerialNumber　**コンポーネントの号機番号です。**

2.2.18 getSoftwareInfo

Syntax:
`dscli getSoftwareInfo` *`Component`*

Description:
コンポーネント上の Agent 拡張バージョン(ESMPRO/ServerAgent Extension のバージョン)、OS のバージョン、BIOS のバージョン、LAN ドライバのバージョンを取得して表示します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:
`Component`
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
バージョン情報を表示します。表示例を示します。

```
Agent Extension Version: 2.03.04
BIOS Version           : 6.0.0106
OS Version             : Windows 2003 Server
LAN driver Version     : 5.0.2175.1
```

2.2.19 setShutdownPolicy

Syntax:
`dscli setShutdownPolicy` *`Component KeyName Value`*

Description:
コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension のシャットダウン設定を変更します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`KeyName`

変更するシャットダウン設定項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

`Value`

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください

KeyName	意味	Value
SCH_ACLINK_STAYON_ENABLE	スケジュール運転による OS シャットダウンを実行する際に AC-LINK を Always Power On に設定	0: 無効, 1: 有効
SCH_AC_LINK	AC-LINK 設定値 (setPowerRestoreDelay コマンドと同じ働きをします) ※表示のみ。設定はできません。	-
SCH_DC_OFF_ENABLE	OS シャットダウン後に強制電源 OFF を実行 (OS シャットダウン後も電源 ON 状態のままとなるコンポーネントの場合、有効に設定することで ESMPRO/ServerAgent Extension がコンポーネントを OS シャットダウンする時に電源も OFF にします。)	0: 無効 1: 有効
SCH_DC_OFF_DELAY	SCH_DC_OFF_ENABLE が有効の場合、OS シャットダウン後の強制電源 OFF までの時間（分）	5－60
SCH_SHUTDOWN_ENABLE	スケジュール運転で指定された休止期間中に電源 ON されたときに、自動シャットダウンを実行	0: 無効 1: 有効
SCH_SHUTDOWN_WAIT	OS シャットダウンコマンド実行から、実際に OS シャットダウンが開始されるまでの猶予時間（秒） ※表示のみ。設定はできません。	-

2.2.20 getShutdownPolicy

Syntax:
dscli getShutdownPolicy *Component*

Description:
コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension のシャットダウン設定を取得して表示します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:
Component
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
シャットダウン設定を表示します。詳細は、2.2.19 setShutdownPolicyを参照してください。
表示例を示します。

```
SCH_ACLINK_STAYON_ENABLE=0
SCH_AC_LINK=1
SCH_DC_OFF_ENABLE=1
SCH_DC_OFF_DELAY=10
SCH_SHUTDOWN_ENABLE=1
SCH_SHUTDOWN_WAIT=60
```

2.2.21 setPowerRestoreDelay

Syntax:
dscli setPowerRestoreDelay *Component DelayTime [/x Policy]*

Description:
コンポーネントが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定を変更します。
電源オプション設定では､AC-LINK 設定､および､AC-LINK 設定が AC ON 時に連動して電源 ON(DC ON)する設定になっているときの AC ON から DC ON までの間隔を指定できます。

重要：
- コンポーネントが電源オプション設定機能をサポートしていない場合は実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

Options:
Component
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

DelayTime

AAA～BBB	AC ON から DC ON までの間隔を秒単位で指定します。 ※AAA はコンポーネントの設定可能最小値 ※コンポーネントが EXPERSSSCOPE エンジン 3 を搭載している場合､BBB は 600 ※コンポーネントが EXPERSSSCOPE エンジン 3 を搭載していない場合、BBB は 255
-1	AC ON から DC ON までの間隔を変更しないときに指定します。

RANDOM	AC ON から DC ON までの間隔をランダムに指定します。 ※ランダム設定機能をサポートしているコンポーネントの場合指定できます。

/x Policy

AC-LINK を設定します。Policy に設定可能な値は 3 種類です。

STAY_OFF	AC ON 時、DC OFF 状態になります。
LAST_STATE	DC OFF 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DC OFF 状態になります。 DC ON 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。
POWER_ON	AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。

2.2.22 getPowerRestoreDelay

Syntax:

`dscli getPowerRestoreDelay` *`Component`*

Description:

コンポーネントが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定の内容を取得して表示します。

電源オプション設定の詳細は 2.2.21 setPowerRestoreDelayを参照してください。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

電源オプション設定を表示します。表示例を示します。

```
Policy                        : LAST_STATE
Delay Time                    : RANDOM
Delay Time Range              : 45 - 600 sec
```

2.2.23 setBmcInfo

Syntax:
`dscli setBmcInfo` *`Component KeyName Value`*

Description:
コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報を変更します。BMC の種類によってサポートしているパラメータが異なります。

ヒント：
- 認証キーおよびモデム経由通報の通報先パスワードを変更する場合はsetAuthKeyを使用します。2.2.25 setAuthKeyを参照してください。
- CFG_MAIL_ALERT_LEVEL、CFG_SNMP_ALERT_LEVELのセンサ個別レベルを変更する場合は setSensorLevel を使用します。2.2.26 setSensorLevel を参照してください。
- CFG_NETWORK_SHARED_BMC_LAN、CFG_NETWORK_BMC_MACは変更できません。getBmcInfo で使用します。2.2.24 getBmcInfo を参照してください。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`KeyName`
変更する BMC コンフィグレーション項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

`Value`
新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

KeyName	意味	Value
CFG_COMPUTER_NAME	共通：コンピュータ名	15 文字まで
CFG_COMMUNITY	共通：コミュニティ名	16 文字まで
CFG_ALERT_ALL	共通：通報	0: 無効 1: 有効
CFG_POLICY	共通：通報手順	1: 1つの通報先のみ 2: すべての通報先
CFG_ALERT_ACKNOWLEDGE	共通：通報応答確認	0: 無効 1: 有効
CFG_ALERT_LEVEL	共通：通報レベル	0: 通報なし 1 - 6: 通報レベル 1 - 6
CFG_LAN_CONTROL_LAN1	共通：リモート制御(LAN1)	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_CONTROL	共通：リモート制御(WAN/ダイレクト)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_REDIRECTION	共通：リダイレクション(LAN)	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_REDIRECTION	共通：リダイレクション(WAN/ダイレクト)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_CONTROL_LAN2	共通：リモート制御(LAN2)	0: 無効 1: 有効

KeyName	意味	Value
CFG_LAN_ALERT_POLICY_LAN	共通：LAN 通報設定 LAN1/LAN2 優先	0: LAN1 優先 1: LAN2 優先
CFG_LAN_ALERT_POLICY_DESTINATION	共通：LAN 通報設定 LAN/通報先 優先	0: LAN 優先 1: 通報先優先
CFG_DHCP	LAN1:IP アドレスを自動的に取得する(DHCP)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_IP_LAN1	LAN1:IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_SUBNET_LAN1	LAN1:サブネットマスク	IP アドレス形式
CFG_LAN_GATEWAY_LAN1	LAN1:デフォルトゲートウェイ	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN1	LAN1: 1 次通報先/管理用 PC(1) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN1	LAN1: 1 次通報先/管理用 PC(1) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN1	LAN1: 2 次通報先/管理用 PC(2) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN1	LAN1: 2 次通報先/管理用 PC(2) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN1	LAN1: 3 次通報先/管理用 PC(3) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN1	LAN1: 3 次通報先/管理用 PC(3) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN1	LAN1:通報リトライ回数	0 – 7
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN1	LAN1:通報タイムアウト (秒単位)	3 – 30
CFG_DHCP_LAN2	LAN2:IP アドレスを自動的に取得する(DHCP)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_IP_LAN2	LAN2:IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_SUBNET_LAN2	LAN2:サブネットマスク	IP アドレス形式
CFG_LAN_GATEWAY_LAN2	LAN2:デフォルトゲートウェイ	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN2	LAN2: 1 次通報先/管理用 PC(1) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN2	LAN2: 1 次通報先/管理用 PC(1) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN2	LAN2: 2 次通報先/管理用 PC(2) 通報	0: 無効 1: 有効

KeyName	意味	Value
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN2	LAN2: 2 次通報先/管理用PC(2) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN2	LAN2: 3 次通報先/管理用PC(3) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN2	LAN2: 3 次通報先/管理用PC(3) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN2	LAN2:通報リトライ回数	0 - 7
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN2	LAN2:通報タイムアウト (秒単位)	3 - 30
CFG_SERIAL_MODE	WAN/ダイレクト：モード	1: ダイレクト 2: モデム
CFG_SERIAL_BAUDRATE	WAN/ダイレクト： ボーレート	1: 9600bps 2: 19.2Kbps 3: 57.6Kbps 4: 115.2Kbps
CFG_SERIAL_FLOW_CONTROL	WAN/ダイレクト： フロー制御	1: なし 2: RTS/CTS 3: XON/XOFF
CFG_SERIAL_DIAL_MODE	WAN/ダイレクト： ダイヤルモード	1: パルス 2: トーン
CFG_SERIAL_INIT	WAN/ダイレクト： 初期化コマンド	48 文字まで
CFG_SERIAL_HANG_UP	WAN/ダイレクト： ハングアップコマンド	8 文字まで
CFG_SERIAL_DTR_HANG_UP	WAN/ダイレクト： DTR ハングアップ	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_ESCAPE_CODE	WAN/ダイレクト： エスケープコード	1 文字
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_COUNT	WAN/ダイレクト： 通報設定 ダイヤルリトライ回数	0 - 7
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_INTERVAL	WAN/ダイレクト： 通報設定 ダイヤル間隔 (秒単位)	60 - 240
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_COUNT	WAN/ダイレクト： 通報設定 通報リトライ回数	0 - 7
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_INTERVAL	WAN/ダイレクト： 通報設定 通報タイムアウト(秒単位)	3 - 30
CFG_SERIAL_ALERT_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポーネント 1 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_DIAL_NUMBER_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポーネント 1 電話番号	19 文字まで

KeyName	意味	Value
CFG_SERIAL_USER_ID_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポーネント 1 ユーザ ID	16 文字まで
CFG_SERIAL_DOMAIN_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポーネント 1 ドメイン	16 文字まで
CFG_SERIAL_ALERT_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポーネント 2 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_DIAL_NUMBER_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポーネント 2 電話番号	19 文字まで
CFG_SERIAL_USER_ID_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポーネント 2 ユーザ ID	16 文字まで
CFG_SERIAL_DOMAIN_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポーネント 2 ドメイン	16 文字まで
CFG_SERIAL_MANAGE1_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 1 次通報先	IP アドレス形式
CFG_SERIAL_MANAGE2_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 2 次通報先	IP アドレス形式
CFG_SERIAL_MANAGE3_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 3 次通報先	IP アドレス形式
CFG_PAGER_MANAGE1_ALERT	ページャ： 1 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_PAGER_MANAGE1_DIAL_NUMBER	ページャ： 1 次通報先 電話番号	19 文字まで
CFG_PAGER_MANAGE2_ALERT	ページャ： 2 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_PAGER_MANAGE2_DIAL_NUMBER	ページャ： 2 次通報先 電話番号	19 文字まで
CFG_PAGER_MESSAGE	ページャ： ページャメッセージ	29 文字まで
CFG_PAGER_TIMEOUT	ページャ： ガイドメッセージ待ち時間(2 秒単位)	0 - 30
CFG_NETWORK_SHARED_BMC_LAN	ネットワーク プロパティ： 管理用 LAN 設定 管理用 LAN	0:Management LAN 1:Shared System LAN
CFG_NETWORK_CONNECTION_TYPE	ネットワーク プロパティ： 基本設定 通信タイプ	0: Auto Negotiation 1: 100Mbps Full Duplex 2: 100Mbps Half Duplex 3: 10Mbps Full Duplex 4: 10Mbps Half Duplex
CFG_NETWORK_BMC_MAC	ネットワーク プロパティ： BMC MAC アドレス	MAC アドレス形式

KeyName	意味	Value
CFG_NETWORK_DHCP	ネットワークプロパティ：基本設定 DHCP	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_IP_LAN	ネットワークプロパティ：基本設定 IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_NETWORK_SUBNET_LAN	ネットワークプロパティ：基本設定 サブネットマスク	IP アドレス形式
CFG_NETWORK_GATEWAY_LAN	ネットワークプロパティ：基本設定 デフォルトゲートウェイ	IP アドレス形式
CFG_NETWORK_DYNAMIC_DNS	ネットワークプロパティ：基本設定 ダイナミック DNS	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_DNS_SERVER	ネットワークプロパティ：基本設定 DNS サーバ	IP アドレス形式
CFG_NETWORK_HOST_NAME	ネットワークプロパティ：基本設定 ホスト名	ホスト名とドメイン名合わせて 255 文字まで
CFG_NETWORK_DOMAIN_NAME	ネットワークプロパティ：基本設定 ドメイン名	ホスト名とドメイン名合わせて 255 文字まで
CFG_NETWORK_ACCESS_LIMITATION_TYPE	ネットワークプロパティ：アクセス制限設定 制限タイプ	0: 制限なし 1: 許可アドレス 2: 拒否アドレス
CFG_NETWORK_ACCESS_ADDRESS	ネットワークプロパティ：アクセス制限設定 IP アドレス	IP アドレス形式 コンマ(,)を使用して、IP アドレスを区切ってください IP アドレスは、ワイルドカード(*)での指定が可能です
CFG_NETWORK_HTTP	ネットワークサービス：Web サーバ設定 HTTP	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_HTTP_PORT	ネットワークサービス：Web サーバ設定 HTTP ポート番号	1 - 65535
CFG_NETWORK_HTTPS	ネットワークサービス：Web サーバ設定 HTTPS	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_HTTPS_PORT	ネットワークサービス：Web サーバ設定 HTTPS ポート番号	1 - 65535

KeyName	意味	Value
CFG_NETWORK_SSH	ネットワーク サービス： SSH 設定 SSH	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_SSH_PORT	ネットワーク サービス： SSH 設定 SSH ポート番号	1 - 65535
CFG_MAIL_ALERT	通報 メール通報： 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_MAIL_ALERT_TIMEOUT	通報 メール通報： SMTP サーバ応答待ち時間	30 - 600
CFG_MAIL_ALERT_SERVER	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 サーバ	255 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_PORT	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 ポート番号	1 - 65535
CFG_MAIL_ALERT_CRAMMD5	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 認証 CRAM-MD5	0: 無効 1: 有効
CFG_MAIL_ALERT_LOGIN	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 認証 LOGIN	0: 無効 1: 有効
CFG_MAIL_ALERT_PLAIN	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 認証 PLAIN	0: 無効 1: 有効
CFG_MAIL_ALERT_USER	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 ユーザ名	64 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_TO1	通報 メール通報： メール設定 宛先 1 メール設定 宛先 1 メールアドレス	255 文字まで 無効にする場合は 0 を指定してください
CFG_MAIL_ALERT_TO2	通報 メール通報： メール設定 宛先 2 メール設定 宛先 2 メールアドレス	255 文字まで 無効にする場合は 0 を指定してください

KeyName	意味	Value
CFG_MAIL_ALERT_TO3	通報 メール通報： メール設定 宛先 3 メール設定 宛先 3 メールアドレス	255 文字まで 無効にする場合は 0 を指定してください
CFG_MAIL_ALERT_FROM	通報 メール通報： メール設定 差出人	255 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_REPLY	通報 メール通報： メール設定 返信先	255 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_SUBJECT	通報 メール通報： メール設定 件名	63 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_LEVEL	通報 メール通報： 通報レベル設定 通報レベル	0: 異常 1: 異常、警告 2: 異常、警告、情報 3: 個別設定
CFG_SNMP_ALERT	通報 SNMP 通報： 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SNMP_COMPUTER_NAME	通報 SNMP 通報： コンピュータ名	16 文字まで
CFG_SNMP_COMMUNITY	通報 SNMP 通報： コミュニティ名	16 文字まで
CFG_SNMP_ALERT_ACKNOWLEDGE	通報 SNMP 通報： 通報応答確認	0: 無効 1: 有効
CFG_SNMP_ALERT_POLICY	通報 SNMP 通報： 通報手順	1: １つの通報先のみ 2: すべての通報先
CFG_SNMP_ALERT_RETRY_COUNT	通報 SNMP 通報： 通報リトライ回数	0 – 7
CFG_SNMP_ALERT_TIMEOUT	通報 SNMP 通報： 通報タイムアウト	3 - 30
CFG_SNMP_MANAGE1_ALERT	通報 SNMP 通報： 通報先 1 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SNMP_MANAGE1_IP	通報 SNMP 通報： 通報先 1 次通報先 IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_SNMP_MANAGE2_ALERT	通報 SNMP 通報： 通報先 2 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効

KeyName	意味	Value
CFG_SNMP_MANAGE2_IP	通報 SNMP 通報： 通報先 2 次通報先 IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_SNMP_MANAGE3_ALERT	通報 SNMP 通報： 通報先 3 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SNMP_MANAGE3_IP	通報 SNMP 通報： 通報先 3 次通報先 IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_SNMP_ALERT_LEVEL	通報 SNMP 通報： 通報レベル設定 通報レベル	0: 異常 1: 異常、警告 2: 異常、警告、情報 3: 個別設定
CFG_MISCELLANEOUS_SEL	その他： SEL 設定 SEL 領域 Full 時の動作	0: SEL の記録停止 1: SEL の全クリア 2: 古い SEL を上書き
CFG_MISCELLANEOUS_PEF	その他： PEF 設定 Platfrom Event Filter	0: 無効 1: 有効

2.2.24 getBmcInfo

Syntax:
`dscli getBmcInfo` *`Component`*

Description:
コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報を取得します。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
BMCコンフィグレーション情報を表示します。詳細は、2.2.23 setBmcInfoを参照してください。
表示例を示します。

```
CFG_COMPUTER_NAME=Component1
CFG_COMMUNITY=public
CFG_ALERT_ALL=1
CFG_POLICY=1
CFG_ALERT_ACKNOWLEDGE=1
CFG_ALERT_LEVEL=4
CFG_LAN_REDIRECTION=1
CFG_LAN_CONTROL_LAN1=1
CFG_SERIAL_REDIRECTION=1
CFG_SERIAL_CONTROL=1
CFG_LAN_IP_LAN1=192.168.14.14
CFG_LAN_SUBNET_LAN1=255.255.255.0
CFG_LAN_GATEWAY_LAN1=192.168.14.1
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN1=3
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN1=6
:
```

2.2.25 setAuthKey

Syntax:
`dscli setAuthKey` *`Component OldPassword NewPassword SelectAuthKey`*

Description:
コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報に設定されている認証キーまたはモデム経由通報先である PPP サーバ、メール通報先である SMTP サーバのパスワードを変更します。BMC の種類によってサポートしているパラメータが異なります。

ヒント：
- 認証キーを変更した場合は、このコマンドが正常終了した後、2.2.9 setServerProperty でESMPRO/ServerManager上に登録している認証キーを変更してください。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`OldPassword`
現在の認証キーまたはパスワードを入力します。

`NewPassword`
新しい認証キーまたはパスワードを入力します。
16 文字までの認証キーまたは PPP サーバパスワードを指定してください。
SMTP サーバのパスワードは 20 文字までのパスワードを指定してください。

`SelectAuthKey`
変更する認証キーまたはパスワードの種類を指定します。

0	認証キー
1	PPP サーバ１ パスワード
2	PPP サーバ２ パスワード
3	メール通報 SMTP パスワード

2.2.26 setSensorLevel

Syntax:
`dscli setSensorLevel` *`Component Type SensorName Level1 Level2 Level3`*

Description:
コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報に設定されている通報個別センサレベルを変更します。このコマンドは通報レベルが個別設定の場合に実行できます。

ヒント：
- 通報レベルを個別設定に変更する場合は setBmcInfo を使用します。2.2.23 setBmcInfo を参照してください。
- 通報レベルの指定には 8 を指定することができません。getSensorLevelで使用します。2.2.27 getSensorLevel を参照してください。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Type

通報タイプを指定します。

SNMP　　SNMP 通報
MAIL　　メール通報

SensorName

通報レベルを変更するセンサ名を指定します。一覧を参照してください。

Level1

通報レベル(異常)を指定します。以下の数値によって通報レベルの指定を行います。

Level2

通報レベル(警告)を指定します。以下の数値によって通報レベルの指定を行います。

Level3

通報レベル(情報)を指定します。以下の数値によって通報レベルの指定を行います。

0　SNMP 通報またはメール通報の通報レベルを無効
1　SNMP 通報またはメール通報宛先 1 の通報レベルを有効
2　メール通報宛先 2 の通報レベルを有効
3　メール通報宛先 3 の通報レベルを有効
4　メール通報宛先 1、宛先 2 の通報レベルを有効
5　メール通報宛先 1、宛先 3 の通報レベルを有効
6　メール通報宛先 2、宛先 3 の通報レベルを有効
7　メール通報宛先 1、宛先 2、宛先 3 の通報レベルを有効
8　SNMP 通報またはメール通報の全宛先の通報レベルが未対応

ヒント：

- 指定したセンサで変更不可の通報レベルがある場合、0 を指定してください。

センサ名と指定可能レベルの一覧を参照してください。
○：変更可能、×：変更不可能

SensorName	意味	Level1	Level2	Level3
TEMP_THRESHOLD	温度(閾値監視)	○	○	○
VOLT_THRESHOLD	電圧(閾値監視)	○	○	○
FAN_SENSOR	ファン(回転数)	○	○	○
COOL_DEV_THRESHOLD	冷却装置(閾値監視)	○	○	○
TEMP_ABNORMAL	温度(異常監視)	○	×	○
POST_MEM_RESIZE	メモリ縮退	×	○	○
MODULE_BOARD	モジュール/ボード(未実装)	○	×	○
SMI_TIMEOUT	SMI Timeout	○	×	○
VOL_ABNORMAL	電圧(異常監視)	○	×	○
COOL_DEV_ABNORMAL	冷却装置(異常監視)	○	○	○
TRANSITION_PW_SAVE	低消費電力モード遷移	×	×	○

SensorName	意味	Level1	Level2	Level3
MICROCONTROLL_STS	マイクロコントローラ状態	×	○	○
PW_UNIT_REDUN	電源ユニット(冗長構成監視)	○	○	○
PHY_SEC	筐体イントリュージョン	×	×	○
PLATFORM_SEC	セキュリティ違反	×	×	○
PROCESSOR	プロセッサ	○	×	○
PW_SUPPLY	電源モジュール	×	○	○
PW_UNIT_STS	電源ユニット(状態監視)	○	○	○
MEM	メモリ	○	×	○
DRIVE_SLOT	デバイスベイ	○	○	○
POST_ERR	POST	○	×	○
EVT_LOG_DISABLED	ログ	×	○	○
SYS_EVT	システムイベント	×	×	○
CRITICAL_INT	異常系割り込み	○	×	○
BUTTON_SWITCH	ボタン/スイッチ	×	×	○
CHIP_SET	チップセット	○	×	○
CABLE_INTERRUPT	ケーブル/機器相互接続	×	×	○
SYS_BOOT_RESTART_INIT	システムブート/リスタート	×	×	○
BOOT_ERR	ブートエラー	×	×	○
OS_BOOT	OS ブート	×	×	○
OS_STOP_SHUTDOWN	OS 停止/シャットダウン	○	×	○
SLOT_CONNECTOR	スロット/コネクタ	○	○	○
ACPI	ACPI(省電力管理)	×	×	○
WATCHDOG_TIMER	ウォッチドッグタイマ	○	×	○
ENTITY_PRESENCE_INFO	装置構成単位の実装情報	×	×	○
VERSION_CHANGE	バージョン変更	×	×	○
FRU_HOT_SWAP	FRU Hot Swap	×	×	○
SYS_SPEC_PW_STATE	システム固定電源状態	×	×	○
PW_CAPPING	Power Capping	○	○	×
SENSOR_FAILURE	センサ故障	○	×	○
MANAGEMENT_ENGINE	マネージメントエンジン	○	×	○

2.2.27 getSensorLevel

Syntax:
`dscli getSensorLevel` *`Component Type`*

Description:
コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報の通報レベル設定の通報レベルの個別センサレベルを表示します。

Options:
Component
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Type
通報タイプを指定します。

SNMP	SNMP 通報
MAIL	メール通報

Output:
センサ個別レベル情報を表示します。詳細は、2.2.26 setSensorLevel を参照してください。
表示例を示します。

```
TEMP_THRESHOLD=111
VOLT_THRESHOLD=000
FAN_SENSOR=000
PLATFORM_SEC=800
PROCESSOR=000
PW_SUPPLY=000
PW_UNIT_STS=000
MEM=000
DRIVE_SLOT=000
EVT_LOG_DISABLED=800
SYS_EVT=080
CRITICAL_INT=000
BUTTON_SWITCH=880
MODULE_BOARD=800
SYS_BOOT_RESTART_INIT=880
BOOT_ERR=880
ACPI=880
SMI_TIMEOUT=800
POST_MEM_RESIZE=800
POST_ERR=800
SLOT_CONNECTOR=080
WATCHDOG_TIMER=080
SENSOR_FAILURE=800
:
```

2.2.28 getAgentExtensionLog

Syntax:
`dscli getAgentExtensionLog` *`Component`*

Description:
ESMPRO/ServerAgent Extension のアプリケーションログを取得して表示します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:
Component
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
ESMPRO/ServerAgent Extension のアプリケーションログを表示します。

2.2.29 testAlert

Syntax:
`dscli testAlert` *`Component Target`*

Description:
コンポーネントに通報テストを実行させます。BMC の種類によってサポートしているパラメータが異なります。
通報テストの結果は 2.2.30 getTestAlertStatusで確認してください。

Options:
Component
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Target
通報先を指定します。以下の数値によって通報先の指定を行います。
LAN1_1 (または 0) : LAN1 1 次通報先
LAN1_2 (または 1) : LAN1 2 次通報先
LAN1_3 (または 2) : LAN1 3 次通報先
LAN2_1 (または 3) : LAN2 1 次通報先
LAN2_2 (または 4) : LAN2 2 次通報先
LAN2_3 (または 5) : LAN2 3 次通報先
PPP1_1 (または 6) : PPP1 1 次通報先
PPP1_2 (または 7) : PPP1 2 次通報先
PPP1_3 (または 8) : PPP1 3 次通報先
PPP2_1 (または 9) : PPP2 1 次通報先
PPP2_2 (または 10) : PPP2 2 次通報先
PPP2_3 (または 11) : PPP2 3 次通報先
Pager1 (または 12) : Pager 1 次通報先
Pager2 (または 13) : Pager 2 次通報先
SNMP1 (または 14) : SNMP 1 次通報先
SNMP2 (または 15) : SNMP 2 次通報先
SNMP3 (または 16) : SNMP 3 次通報先
MAIL1 (または 17) : メール 宛先 1
MAIL2 (または 18) : メール 宛先 2
MAIL3 (または 19) : メール 宛先 3

2.2.30 getTestAlertStatus

Syntax:
`dscli getTestAlertStatus` *`Component Target`*

Description:
通報テストの実行状態を取得します。BMC の種類によってサポートしているパラメータが異なります。

Options:
Component
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Target
　状態を取得する通報先を指定します。通報先の指定については 2.2.29 testAlertを参照してください。

Output:
通報テストの実行状態を表示します。実行状態には以下の種類があります。

TEST_UNKNOWN	:不明
TEST_TESTING	:通報中
TEST_SUCCESS	:通報終了(正常終了)
TEST_ABORT	:通報失敗(異常終了)
TEST_CALL_FAILED	:通報失敗(ダイヤルアップ失敗)
TEST_TIMEOUT	:通報失敗(タイムアウト)
TEST_ERROR	:通報失敗(その他エラー)

通報中の場合の表示例を示します。

```
TEST_TESTING
```

2.2.31 getServerStatus

Syntax:
`dscli getServerStatus` *`Component`*

Description:
指定されたコンポーネントの状態を表示します。
コンポーネント監視機能で、コンポーネントの状態を確認します。

Options:
Component
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
コンポーネントの状態には以下の種類があります。

ERROR	異常
WARNING	警告
UNKNOWN	不明、通信エラー
DC-OFF	DC-OFF
NORMAL	正常
NO_MONITORING	監視対象外

2.2.32 getPowerStatus

Syntax:
`dscli getPowerStatus` *`Component`*

Description:
コンポーネントの電源状態を取得して表示します。

Options:
`Component`
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
電源状態を表示します。電源状態は以下の 2 種類です。

DC_ON	パワーオン
DC_OFF	パワーオフ

2.2.33 getStatusLamp

Syntax:
`dscli getStatusLamp` *`Component [/x ModuleNo]`*

Description:
コンポーネントの STATUS ランプの状態を取得して表示します。

Options:
`Component`
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
コンポーネントの STATUS ランプの状態を表示します。STATUS ランプの状態は以下の 7 種類です。

OFF	消灯
GREEN_ON	緑点灯
GREEN_BLINK	緑点滅
AMBER_ON	アンバー点灯
AMBER_BLINK	アンバー点滅
RED_ON	赤点灯
RED_BLINK	赤点滅

2.2.34 getPanelInfo

Syntax:
`dscli getPanelInfo` *`Component [/x ModuleNo]`*

Description:
コンポーネントのフロントパネル情報として、電源状態、STATUS ランプ、LCD、ウォッチドッグタイマのシステム監視状態、システム通電累積時間を取得して表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

フロントパネル情報を表示します。表示例を示します。

```
Power Status        : S0_G0
STATUS Lamp         : GREEN_ON
LCD0                : Prepare To Boot
LCD1                :
Watchdog Status     : STARTED
Watchdog Use        : SMS_OS
Watchdog Interval   : 10 sec
POH                 : 262920 min
:
```

2.2.35 powerOn

Syntax:

dscli powerOn *Component [/p]*

Description:

コンポーネントの電源を ON にします。

また、コンポーネントが POWER スイッチによって回復するスリープ状態にある場合は、このコマンドによりスリープ状態から回復できます。

重要：

- コンポーネントが強制ネットワークブート機能（ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能）をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。
- 電源ベイの場合、電源制御操作は電源ベイ自体に対しては行われません。電源ベイに搭載されているメンテナンスカードの電源制御が行われます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/p

“/p”を指定すると、電源 ON 後、ネットワークブートを行います。

ヒント：

- プロパティの設定は 2.2.9 setServerPropertyで行ってください。

2.2.36 powerOff

Syntax:
```
dscli powerOff Component
```

Description:
コンポーネントの電源を強制的に OFF にします。

重要：
- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- 電源ベイの場合、電源制御操作は電源ベイ自体に対しては行われません。電源ベイに搭載されているメンテナンスカードの電源制御が行われます。

Options:
Component
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.2.37 reset

Syntax:
```
dscli reset Component /p]
```

Description:
コンポーネントを強制的にリセットします。

重要：
- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- コンポーネントが強制ネットワークブート機能（ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能）をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。
- 電源ベイの場合、電源制御操作は電源ベイ自体に対しては行われません。電源ベイに搭載されているメンテナンスカードの電源制御が行われます。

Options:
Component
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/p
"/p"を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

ヒント：
- プロパティの設定は 2.2.9 setServerPropertyで行ってください。

2.2.38 powerCycle

Syntax:
`dscli powerCycle` *`Component [/p]`*

Description:
コンポーネントの電源を強制的に OFF にした後、ON にします。

重要：
- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- コンポーネントが強制ネットワークブート機能（ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能）をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。
- 電源ベイの場合、電源制御操作は電源ベイ自体に対しては行われません。電源ベイに搭載されているメンテナンスカードの電源制御が行われます。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`/p`
“/p”を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

ヒント：
- プロパティの設定は 2.2.9 setServerPropertyで行ってください。

2.2.39 shutdownOs

Syntax:
`dscli shutdownOs` *`Component [/force]`*

Description:
コンポーネント上の OS をシャットダウンします。
LAN 経由で実行する場合は、コンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに実行できます。ダイレクト接続またはモデム経由接続で実行する場合は、ESMPRO/ServerAgent に OS シャットダウンを指示します。
"/force"オプションを指定した場合は、接続形態に関わらず、強制シャットダウンを行います。このとき ESMPRO/ServerAgent Extension または ESMPRO/ServerAgent とは通信を行いません。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`/force`

"/force"を指定すると、強制シャットダウンを実行します。
OS の種類や設定によっては正しくシャットダウンされない可能性があります。

2.2.40 dumpSwitch

Syntax:
`dscli dumpSwitch` *`Component`*

Description:
コンポーネントの DUMP スイッチを入れます。

重要：
- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.2.41 clearSel

Syntax:
`dscli clearSel` *`Component [/force]`*

Description:
コンポーネントのシステムイベントログ(SEL)領域をクリアします。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`/force`
"force"を指定すると、コンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent の自動バックアップサービスが動作している場合も、SEL 領域をクリアします。

2.2.42 identifyChassis

F

Syntax:
`dscli identifyChassis` *`Component Period`*

Description:
コンポーネントの筐体識別ランプを点灯させます。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`Period`
点灯時間を秒単位で指定します。0-255 の範囲で指定してください。

2.2.43 getIpmiInfo

Syntax:
`dscli getIpmiInfo` *`Component FileName`*

Description:
IPMI 情報を取得し、指定されたファイル名で保存します。
今回読み込まない種類の情報について、ESMPRO/ServerManager が以前に読み込んだ情報を保持している場合は、合わせてファイルに保存します。

ヒント：
- 取得した IPMI 情報保存ファイルは、ESMPRO/ServerManager に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」より、アップロードして参照できます。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`FileName`
取得した情報を保存するファイル名(パス名)を指定します。

2.2.44 getSensorList

Syntax:
`dscli getSensorList` *`Component`*

Description:
あらかじめ 2.2.43 getIpmiInfoを実行してください。getIpmiInfoコマンドで取得したセンサ情報(SDR)から、現在の状態を取得可能なセンサの一覧を作成して表示します。一覧の先頭に、各センサのSDRレコードIDが表示されます。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
センサの一覧を表示します。表示例を示します。

```
0001h:  Sensor Type=Temperature(Front Panel Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0002h:  Sensor Type=Temperature(Baseboard Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0003h:  Sensor Type=Temperature(Processor 1 Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0004h:  Sensor Type=Temperature(Processor 2 Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0005h:  Sensor Type=Temperature(PwrDstBd Temp),  Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
 :
```

2.2.45 getSensorStatus

Syntax:
`dscli getSensorStatus` *`Component RecordId`*

Description:
コンポーネント上の指定されたセンサの状態を取得します。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`RecordId`

2.2.44 getSensorListにより表示されたセンサー一覧から、SDRレコードIDを指定します。

Output:
センサの状態を表示します。表示例を示します。

```
Current Value:
  30.00 degrees C
Current Status:
  Normal
Upper non-recoverable Threshold:
  ---
Upper critical Threshold:
  46.00 degrees C (Hysteresis:44.00 degrees C)
Upper non-critical Threshold:
  43.00 degrees C (Hysteresis:41.00 degrees C)
Lower non-critical Threshold:
  3.00 degrees C (Hysteresis:5.00 degrees C)
Lower critical Threshold:
  0.00 degrees C (Hysteresis:2.00 degrees C)
Lower non-recoverable Threshold:
  ---
```

2.2.46 getConsoleLog

Syntax:
`dscli getConsoleLog` *`Component`*

Description:
コンポーネントのコンソールログを表示します。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
コンソールログを表示します。

2.2.47 setBmcIpSync

Syntax:
`dscli setBmcIpSync` *`Component Value`*

Description:
コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC IP アドレス同期設定(BMC が標準 LAN ポートを使用するコンポーネントの場合､OS 上に設定されている IP アドレスと BMC コンフィグレーションの IP アドレスを定期的に比較し、異なるときは BMC の IP アドレスを変更する機能)の有効／無効を変更します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`Value`

同期設定の有効／無効を指定します。

0	無効
1	有効

ヒント：
- BMC が専用 LAN ポート（管理 LAN 用ポート）を使用するコンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension に対してこのコマンドを発行した場合、コマンドは正常終了しますが、何も設定されません。

2.2.48 getBmcIpSync

Syntax:
`dscli getBmcIpSync` *`Component`*

Description:
コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC IP アドレス同期設定(BMC が標準 LAN ポートを使用するコンポーネントの場合､OS 上に設定されている IP アドレスと BMC コンフィグレーションの IP アドレスを定期的に IP アドレスを比較し、異なるときは BMC の IP アドレスを変更する機能)の有効／無効を取得して表示します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
同期設定の有効／無効を表示します。

Enable	有効
Disable	無効

表示例を示します。

```
Agent Config (BMC IP Sync) : Enable
```

2.2.49 getBladeSlotId

Syntax:
`dscli getBladeSlotId` *`Component`*

Description:
あらかじめ 2.2.43 getIpmiInfoを実行してください。コンポーネントがブレードサーバの場合、ブレードが格納されている筐体（ブレード収納ユニット）を識別するための筐体ID、および筐体内の実装位置を示すスロットIDを取得します。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
筐体 ID およびスロット ID を表示します。表示例を示します。

```
Enclosure ID: 0040000000
Slot ID:      2
```

2.2.50 setBmcIpAddressLan1

Syntax:
`dscli setBmcIpAddressLan1` *`Component IpAddress [/force]`*

Description:
コンポーネントの BMC の LAN1 の IP アドレスを変更します。

Options:
`Component`
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`IpAddress`
BMC の LAN1 の IP アドレスを指定します。

`/force`
BMC が標準 LAN ポートを使用するコンポーネントに対して、コンポーネント上で OS が動作中に BMC の IP アドレスを変更する場合は、“/force”を指定します。

ヒント：
- *IpAddress* に既に登録されている IP アドレスは指定できません。

2.2.51 setBmcIpAddressLan2

Syntax:
`dscli setBmcIpAddressLan2 Component IpAddress [/force]`

Description:
コンポーネントの BMC の LAN2 の IP アドレスを変更します。

Options:
Component
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

IpAddress
BMC の LAN2 の IP アドレスを指定します。

/force
“/force”を指定すると、コンポーネント上で OS が動作中でも BMC の IP アドレスを変更します。

ヒント：
- *IpAddress* に既に登録されている IP アドレスは指定できません。

2.2.52 deleteBmcUser

Syntax:
`dscli deleteBmcUser Component UserId`

Description:
コンポーネントの BMC コンフィグレーションに設定されているユーザアカウント情報を削除します。

Options:
Component
コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

UserId
BMC を利用するユーザに割り付けられている番号(1～12)を指定します。

2.2.53 getBmcUserList

Syntax:
`dscli getBmcUserList` *`Component`*

Description:
コンポーネントの BMC コンフィグレーションに設定されているユーザアカウント情報の一覧を表示します。

Options:
`Component`

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:
表示例を示します。

```
No.1
  User         : true
  User Name    : USERNAME1
  Privilege    : Administrator
No.2
  User         : true
  User Name    : USERNAME2
  Privilege    : Operator
No.3
  User         : false
  User Name    : USERNAME3
  Privilege    : User
```

2.2.54 setBmcUserInfo

Syntax:
`dscli setBmcUserInfo` *`Component UserId KeyName Value`*

Description:
BMC コンフィグレーションのユーザアカウント情報を変更します。

Options:
`Component`
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

`UserId`
　BMC を利用するユーザに割り付けられている番号(1～12)を指定します。

`KeyName`
　変更するユーザアカウント情報項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

`Value`
　新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

KeyName	意味	Value
USER	ユーザ	0: 無効 1: 有効
USER_NAME	ユーザアカウント名	15 文字まで(*1)
USER_PASSWORD	パスワード	19 文字まで(*2)
USER_PRIVILEGE	権限	0: ユーザ 1: オペレータ 2: アドミニストレータ

(*1) 半角英数字と「-」、「_」のみ使用可能。但し「-」はユーザアカウント名の先頭には使用できません。
(*2) 「(空白)」、「“」、「&」、「?」、「=」を除く ASCII 文字列のみ使用可能。

2.2.55 getBmcUserInfo

Syntax:
`dscli getBmcUserInfo *Component UserId*`

Description:
BMC コンフィグレーションのユーザアカウント情報を取得します。

Options:
Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

UserId

BMC を利用するユーザに割り付けられている番号(1～12)を指定します。1 ～12 のうち、未登録ユーザ ID が指定された場合、全て空白で表示します。

Output:
表示例を示します。

```
USER           : true
USER NAME      : USERNAME2
USER_PRIVILEGE : Operator
```

2.3 EMカード管理系コマンド

以下のコンポーネント管理系コマンドは EM カードに対しても実行できます。但し、オプション名 Component に MAC アドレスを指定することはできません。

2.2.43getServerNameByGuid
2.2.4findNewServer
2.2.5findNewServerNetAddr
2.2.6createServer
2.2.7deleteServer
2.2.8checkConnection
2.2.9setServerProperty
2.2.13getServerProperty
2.2.14getServerInfo
2.2.165getGuidDeviceId
2.2.16getGuid
2.2.31getServerStatus

2.3.1 getEmCardList

Syntax:
`dscli getEmCardList` *`[/d]`*

Description:
ESMPRO/ServerManager 上に登録された EM カードの一覧を表示します。

Options:
`/d`
　“/d”を指定すると、EM カード一覧に、EM カード名の他 GUID を表示します。

Output:
ESMPRO/ServerManager 上に登録された EM カードの一覧を表示します。

(“/d”オプションを指定しない場合)
```
EM0001
EM0002
```

(“/d”オプションを指定した場合)
```
EM0001
GUID  01b21dd2:1dd2:11b2:2fa4:003013630cc5

EM0002
GUID  01b21dd2:1dd2:11b2:49bd:003013630cc0
```

2.3.2 getEmActiveState

Syntax:
`dscli getEmActiveState` *`EmCard`*

Description:
指定された EM カードの、アクティブ/スタンバイの状態を表示します。

Options:
`Server`
EM カードの名前を指定します。

Output:

Active	アクティブ
Standby	スタンバイ

2.3.3 identfyEm

Syntax:
`dscli identifyEm` *`EmCard [/x SwmSlotNumber]`*

Description:
指定された EM カード、または EM カードが管理するスイッチモジュールの筐体識別ランプを 15 秒間点灯させます。EM カードがアクティブな場合のみ実行できます。

Options:
`EmCard`
EM カードの名前を指定します。

`/x SwmSlotNumber`
EM カードが管理するスイッチモジュールの筐体識別ランプを点灯させたい場合に、スロット番号を指定してください。

2.3.4 getEmStatusLamp

Syntax:
`dscli getEmStatusLamp` *`EmCard [/x SwmSlotNumber]`*

Description:
指定された EM カード、または EM カードが管理するスイッチモジュールの STATUS ランプの状態を取得して表示します。

Options:
`EmCard`

EM カードの名前を指定します。

`/x SwmSlotNumber`

EM が管理するスイッチモジュールの STATUS ランプを取得したい場合に、スイッチモジュールのスロット番号を指定します。スイッチモジュールの STATUS ランプ状態取得は、EM カードがアクティブな場合のみ実行できます。

Output:
STATUS ランプの状態を表示します。STATUS ランプの状態は以下の通りです。

GREEN_ON　　緑点灯
GREEN_BLINK 緑点滅
AMBER_BLINK アンバー点滅
RED_BLINK　　赤点滅

2.4 筐体管理系コマンド

2.4.1 getBladeEnclosureList

Syntax:
`dscli getBladeEnclosureList`

Description:
ESMPRO/ServerManager 上に登録されているコンポーネントまたは EM カードが搭載されているブレード収納ユニットの一覧を表示します。

Output:
コンポーネントまたは EM カードが搭載されているブレード収納ユニットの一覧を表示します。

2.4.2 getChassisSlotState

Syntax:
`dscli getChassisSlotState` *`ChassisName`*

Description:
指定された筐体がブレード収納ユニットの場合、各ブレードスロットの実装状態を表示します。ＥＭカード、およびスイッチモジュールが搭載されている筐体の場合は、ＥＭカードおよびスイッチモジュールの一覧も表示します。

Options:
`ChassisName`
　　筐体名を指定します。

Output:

表示内容	説明	
スロット番号	スロット番号を示します。 搭載されているブレードが 2 枚幅か高さの場合は、複数のスロット番号を表示します。	
実装状態	コンポーネント名	スロットに実装されている、かつ ESMPRO/ServerManager 上にコンポーネント登録されているに場合に表示します。 ブレードの幅 2 の場合は、コンポーネント名に続けて(Double-wide)と表示します。 ブレードの高さ 2 の場合は、コンポーネント名に続けて(Full-hight)と表示します。
	Installed	スイッチモジュールがスロットに実装されている場合に表示します。
	Not registered	スロットに実装されている、かつ ESMPRO/ServerManager 上にコンポーネント登録されていない場合に表示します。
	Not installed	スロットに実装されていない場合に表示します。
	(空白)	「未登録」と「未実装」を判別できない場合、何も表示しません。

表示例を示します。

```
CPU Blade:
1: SERVER_0001
2: SERVER_0002
3,4: SERVER_0003 (Double-wide)
5: Not installed
6: Not registered
7: Not installed
8: Not registered

EM Card:
1.EM0001
2.EM0002

Switch Module:
1: Installed
2: Installed
3: Not installed
4: Not installed
5: Not instaleld
6: Not installed
```

2.4.3 getChassisInfo

Syntax:
`dscli getChassisInfo` *`ChassisName`*

Description:
指定された筐体の情報を表示します。

Options:
`ChassisName`
筐体の名前を指定します。

Output:
指定された筐体の情報を表示します。

項目名	意味
Chassis Name	筐体の名前です。
Comments	筐体についての説明です。
Rack Name	ラックの名前です。EM カードを搭載している筐体の場合に表示されます。
Rack ID	ラック ID です。EM カードを搭載している筐体の場合に表示されます。
Unit Name	ブレード収納ユニット名です。EM カードを搭載している筐体の場合に表示されます。
Serial Number	筐体識別用のシリアル番号です。

2.4.4 setChassisProperty

Syntax:
`dscli setChassisProperty *ChassisName PropertyName Value*`

Description:
指定された筐体の筐体プロパティを設定します。

Options:
ChassisName
筐体の名前を指定します。

PropertyName
設定するプロパティのキー名を指定します。一覧を参照してください。

Value
新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value
CHASSIS_NAME	筐体の名前です。	32 文字まで
CHASSIS_COMMENT	筐体についての説明です	100 文字まで

ヒント：
- CHASSIS_NAME に既に登録されている筐体の名前は指定できません。

2.4.5 getChassisProperty

Syntax:
`dscli getChassisProperty *ChassisName PropertyName*`

Description:
指定された筐体の筐体プロパティを表示します。

Options:
ChassisName
筐体の名前を指定します。

PropertyName
取得するプロパティのキー名を指定します。筐体プロパティの一覧は 2.4.4 setChassisProperty を参照してください。

Output:
指定された筐体プロパティを表示します。

2.4.6 setBladeAutoSetting

Syntax:
dscli setBladeAutoSetting *ChassisName SlotNumber PropertyName Value*

Description:
このコマンドは EM カードを搭載可能な筐体に対してのみ有効です。
筐体に新しく CPU ブレードが実装されたことを検出したときに、CPU ブレード上の BMC のコンフィグレーションと ESMPRO/ServerManager 上へのコンポーネント登録を自動的に行うための情報を設定します。

Options:
ChassisName
筐体名を指定します。

SlotNumber
CPU ブレードのスロット番号を指定します。全スロットに共通の値を設定する場合は”all”を指定します。

PropertyName
設定するプロパティのキー名を指定します。一覧を参照してください。

Value
新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value
AUTH_KEY	認証キーを指定します。	16 文字まで
RECONFIGURE_ BMC	有効に設定すると、新しく挿入された CPU ブレードだけでなく、既に実装を確認している CPU ブレードについても、BMC コンフィグレーションを行います。無効に設定すると、再コンフィグレーションを行いません。	0:無効、1:有効
REWRITE_IP_ADDRESS	CPU ブレードの BMC コンフィグレーションが実施されていない場合も BMC が DHCP サーバから IP アドレスを取得する機能により IP アドレスだけが設定されている場合があります。この項目を有効に設定すると、BMC コンフィグレーション実施時に、必ず指定された値に更新します。	0:無効、1:有効
DHCP	IP アドレスを BMC が DHCP から自動的に取得します。	0:無効、1:有効
IP_ADDRESS	CPU ブレードに設定する BMC の IP アドレスを指定します。一括設定の場合は、先頭のスロットから順に、指定された IP アドレスから連続した IP アドレスを設定します。	IP アドレス形式
SUBNET_MASK	サブネットマスクを指定します。	IP アドレス形式
DEFAULT_GATEWAY	デフォルトゲートウェイを指定します。	IP アドレス形式
ALERT_RECEIVER_IP_ADDRESS	BMC の 1 次通報先/管理用 PC の IP アドレスを指定します。	IP アドレス形式

2.4.7 getBladeAutoSetting

Syntax:
dscli getBladeAutoSetting *ChassisName SlotNumber*

Description:
このコマンドは EM カードを搭載可能な筐体に対してのみ有効です。
筐体に新しくCPUブレードが実装されたことを検出したときに、CPUブレード上のBMCコンフィグレーションとESMPRO/ServerManager上へのコンポーネント登録を自動的に行うための情報を表示します。各情報の詳細は 2.4.6setBladeAutoSettingを参照してください。

Options:
ChassisName
筐体名を指定します。

SlotNumber
CPU ブレードのスロット番号を指定します。

Output:
情報を表示します。
```
RECONFIGURE_BMC：Disable
REWRITE_IP_ADDRESS:Diasable
DHCP:Enable
ALERT_RECEIVER_IP_ADDRESS:192.168.14.18
```

2.5 通信管理系コマンド

2.5.1 connect

Syntax:
`dscli connect` *`Component`*

Description:
コンポーネントとの接続形態に従って、コンポーネントにダイレクト接続またはモデム経由で接続します。

Options:
`Component`
　コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.5.2 disconnect

Syntax:
`dscli disconnect`

Description:
現在接続中の回線を切断します。

2.5.3 getConnectionStatus

Syntax:
`dscli getConnectionStatus`

Description:
ダイレクト接続またはモデム経由接続の接続状態と接続中のコンポーネント名を表示します。

Output:
接続状態を表示します。接続状態には以下の 8 種類があります。

CONNECTING	接続中
CONNECTED	接続完了
DISCONNECTING	切断中
DISCONNECTED	切断完了
CONNECTION_FAILURE	接続失敗
NO_CARRIER	回線切断
BUSY	話中音検出
NO_DIALTONE	ダイヤルトーン未検出

2.6 環境設定系コマンド

2.6.1 setOption

Syntax:
`dscli setOption` *`OptionName Value`*

Description:
ESMPRO/ServerManager の動作を制御する環境設定項目を設定します。

Options:
`OptionName`
設定するオプションパラメータの名前です。設定可能なオプションの一覧を示します。

`Value`
新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

OptionName	意味	Value	初期値
BMC_RETRY_COUNT	コンポーネント上の BMC との通信のリトライ回数です。	0-10	5
BMC_TIMEOUT	コンポーネント上の BMC との通信をリトライする間隔を秒単位で表します。	1-15	5
BMC_SOURCE_PORT	BMC との通信に使用する UDP ポート番号です。	1025-65535	47117
CUI_NO_RESPONSE_TIMEOUT	リモートコンソール接続が通信のタイムアウトにより切断されるまでの秒数です。	20-1800	60
CUI_SYS_RQ_KEY	CUI リモートコンソール接続で使用する SysRq キーのエイリアスキーです。	"": 指定なし "Q":Ctrl+Alt+Q "X":Ctrl+Alt+X	“”
HISTORY_LOG_NUMBER_OF_RECORDS	アプリケーションログの最大件数です。	2000-10000	2000
MODEM_PORT_NUMBER	管理コンポーネントにダイレクト接続するときに使用する Manager コンポーネントのシリアルポート番号です。	1-8	1
MONITORING_ENABLE	コンポーネント監視機能の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	1
MONITORING_AUTO_UPDATE_INTERVAL	Web ブラウザ上で ESMPRO/ServerManager を操作する際に、コンポーネント状態の表示を自動更新する機能の、自動更新間隔を秒単位で表します。	1-60	5
RC_POWER_CONTROL_INTERVAL_MILLIS	複数コンポーネントの電源制御を連続して行う際の実行間隔をミリ秒単位で表します。	0-5000	500
RMI_PORT	RMI 通信に使用する TCP ポート番号です。	1024 - 65535	1099

2.6.2 getOption

Syntax:
`dscli getOption *OptionName*`

Description:
ESMPRO/ServerManager の動作を制御する環境設定項目を取得します。

Options:
OptionName
取得するオプションパラメータの名前です。オプションパラメータの一覧については 2.6.1 setOption を参照してください。

Output:
指定した環境設定項目の値を表示します。

2.6.3 getPermitIpAddrList

Syntax:
`dscli getPermitIpAddrList`

Description:
ESMPRO/ServerManager へのログインを許可する IP アドレス範囲の一覧を表示します。
設定された IP アドレス範囲にある Web クライアントだけが ESMPRO/ServerManager にログインできます。

Output:
IP アドレス範囲の一覧を表示します。表示例を示します。

```
No.1: 192.168.0.1 - 192.168.0.254
No.2: 192.168.1.10
No.3: 192.168.2.10
```

2.6.4 isPermitIpAddr

Syntax:
`dscli isPermitIpAddr *CheckIpAddr*`

Description:
指定した Web クライアントの IP アドレスがログインを許可された IP アドレスかどうかを表示します。

Options:
CheckIpAddr
IP アドレスを指定します。

Output:
指定した IP アドレスがログイン許可する IP アドレスかどうかを表示します。

OK	許可する
NG	許可しない

2.6.5 addPermitIpAddr

Syntax:
`dscli addPermitIpAddr` *`StartIpAddr [EndIpAddr]`*

Description:
ESMPRO/ServerManager へのログインを許可する IP アドレス範囲を追加します。
設定された IP アドレス範囲にある Web クライアントだけが ESMPRO/ServerManager にログインできます。

> ヒント：
> - ESMPRO/ServerManager を起動している Manager コンポーネント上の Web ブラウザからは、アクセス制限に関わらず、ログインできます。

Options:
`StartIpAddr`
ログインを許可する IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを指定します。

`EndIpAddr`
ログインを許可する IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを指定します。このオプションを省略した場合は StartIpAddr で指定した IP アドレスが単独で追加登録されます。

2.6.6 removePermitIpAddr

Syntax:
`dscli removePermitIpAddr` *`StartIpAddr [EndIpAddr]`*

Description:
ログインを許可する Web クライアントの IP アドレス範囲を削除します。

Options:
`StartIpAddr`
開始 IP アドレスを指定します。

`EndIpAddr`
終了 IP アドレスを指定します。

2.6.7 clearPermitIpAddr

Syntax:
`dscli clearPermitIpAddr`

Description:
ログインを許可する Web クライアントの IP アドレス範囲を全て削除します。

2.7 ユーザ管理系コマンド

2.7.1 createUser

Syntax:
`dscli createUser` *`UserName Password`*

Description:
Web ブラウザで ESMPRO/ServerManager を利用するためのユーザを登録します。登録されるユーザの権限はオペレータとなります。最大 30 ユーザまで作成することができます。

Options:
`UserName`
新しいユーザ名を指定します。最大 16 文字までの名前を入力できます。

`Password`
6～16 文字までのパスワードを指定します。

ヒント：
- *UserName* に既に登録されているユーザの名前は指定できません。

2.7.2 deleteUser

Syntax:
`dscli deleteUser` *`UserName`*

Description:
Web ブラウザで ESMPRO/ServerManager を利用するためのユーザの登録を削除します。

Options:
`UserName`
ユーザの名前を指定します。

2.7.3 getUserList

Syntax:
`dscli getUserList`

Description:
登録されているユーザの名前、ユーザ権限の一覧を表示します。ユーザ権限の種別にはアドミニストレータとオペレータがあります。

Output:
表示例を示します。

```
Admin    Administrator
User1    Operator
User2    Operator
 :
 :
```

2.7.4 setUserProperty

Syntax:
```
dscli setUserProperty UserName PropertyName Value
```

Description:
指定されたユーザのユーザプロパティを設定します。

Options:
UserName
　ユーザの名前を指定します。

PropertyName
　設定するプロパティの名前を指定します。設定可能なプロパティの一覧を示します。
　実行権限の変更はオペレータ権限のユーザについて有効です。
　○：変更可能、×：変更不可能

Value
　新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value	初期値	ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰﾀ	ｵﾍﾟﾚｰﾀ
USER_NAME	ユーザ名です。	16 文字まで	空白	○	○
USER_PASSWORD	ログインパスワードです。	6～16 文字まで	空白	○	○
USER_COMMENT	ユーザに関する説明です。	100 文字まで	空白	○	○
UL_POWER_ON	パワーON の実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_POWER_OFF	パワーOFF の実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_RESET	リセットの実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_POWER_CYCLE	パワーサイクルの実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SHUTDOWN	OS シャットダウンの実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_DUMP	DUMP スイッチの実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SEL_CLEAR	システムイベントログ領域のクリアの実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_BMC_REMOTE	BMC 設定を変更する実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_ CONFIG_CREATE	コンポーネント追加の実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_CONFIG_CHANGE_DELETE	接続設定の編集、コンポーネント削除の実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_REMOTE_CONSOLE	リモートコンソールの実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SCHEDULE	スケジュール設定の実行権限の有効／無効を示します	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_REMOTE_BATCH	リモートバッチの実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○

PropertyName	意味	Value	初期値	ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰﾀ	ｵﾍﾟﾚｰﾀ
UL_SET_POWER_RESTORE_DELAY	電源オプション設定を変更する実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_AGENT_SETTING	Agent 設定を変更する実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_CONSOLE_LOG	コンソールログ設定を変更する実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_ENVIRONMENT_OPTION	環境設定を変更する実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_BLADE_AUTO_SETTING	CPU ブレード自動登録設定を変更する実行権限の有効／無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_ELECTRIC_POWER_MONITORING	電力管理の測定開始・中止	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_SERVER_DOWN_MONITORING	死活監視設定の変更	0: 無効 1: 有効	0	×	○

ヒント：
- USER_NAME に既に登録されているユーザの名前は指定できません。

2.7.5 getUserProperty

Syntax:
`dscli getUserProperty` *`UserName PropertyName`*

Description:
指定されたユーザのユーザプロパティを表示します。

Options:
UserName
ユーザの名前を指定します。

PropertyName
取得するプロパティのキー名を指定します。ユーザプロパティの一覧については 2.7.4 setUserPropertyを参照してください。ただし、「USER_PASSWORD」は表示できません。

Output:
指定されたユーザプロパティを表示します。

2.8　その他のコマンド

2.8.1 getApplicationLog

Syntax:
`dscli getApplicationLog` *`[Number]`*

Description:
最新のアプリケーションログを、Number で指定した件数表示します。

Options:
`Number`

表示するログの件数を指定します。このオプションを省略した場合は、最新の 10 件を表示します。

Output:
アプリケーションログを表示します。アプリケーションログは 1 行に日付・コンポーネント名・OS IP アドレス・BMC IP アドレス・ユーザ名・イベント内容の順で表示します。

2.8.2 about

Syntax:
`dscli about`

Description:
ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を表示します。

Output:
ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を表示します。

2.8.3 help

Syntax:
`dscli help` *`[CommandName]`*

Description:
ヘルプを表示します。CommandName オプション が指定されていない場合はコマンド一覧を、CommandName オプション が指定されている場合は指定されたコマンドのヘルプを表示します。

Options:
`CommandName`

ヘルプを表示したいコマンド名を入力します。

Output:
コマンド一覧または指定されたコマンドのヘルプを表示します。

Revision History

1.00	2008/05/19	新規作成
1.01	2009/02/05	ライセンス記述追加
		誤記訂正
1.02	2009/10/06	ライセンス情報更新
1.03	2009/10/29	setBmcInfo/getBmcInfo コマンドにコンフィグレーション項目を追加。
1.04	2010/03/10	誤記訂正
1.05	2010/03/12	電源ベイに対するリモート電源制御コマンドの注意を追加
1.06	2010/08/31	setUserProperty コマンドの記載を修正
1.07	2011/03/28	groupSetPowerRestoreDelay コマンドの記載を修正
		setBmcInfo/getBmcInfo コマンドにコンフィグレーション情報を追加
		setAuthKey コマンドに記載を追加
		setSensorLevel/getSensorLevel コマンドを追加
		setPowerRestoreDelay コマンドの記載を修正
1.08	2011/06/17	ft サーバ関連のコマンドと記載を削除
		setSensorLevel コマンドの記載を修正
1.09	2011/08/02	商標についてを修正
1.10	2012/01/23	groupSetPowerRestoreDelay コマンドに記載を追加
		setPowerRestoreDelay コマンドの記載を追加
		getPowerRestoreDelay コマンドの記載を追加
		deleteBmcUser コマンドを追加
		getBmcUserList コマンドを追加
		setBmcUserInfo コマンドを追加
		getBmcUserInfo コマンドを追加